

達人 Professional vol.26

2021年8月

特集 第1回 慈愛会学会学術集会

Contents

- 巻頭言 ポテンシャルの高さに感銘を受けた第1回学術集会
- 運営を通して / 学術集会一日の記録
- 審査結果報告 / 第2回学術集会に向けて
- 慈愛会の達人たち 東京五輪医療支援
- トピックス / 表彰・受賞
- 慈愛会フィロソフィ
- 在宅医療リレーエッセー



ポスター演題口頭発表全場面 / 係担当者の皆さん

創設87周年 「慈愛会学会」発足 ポテンシャルの高さに感銘を受けた第1回学術集会

公益財団法人慈愛会 理事長
第1回慈愛会学会学術集会 大会長
今村 英仁

7月10日第1回慈愛会学会学術集会が新型コロナ禍の中で開催されました。当法人が昭和9年に産婦人科医院として開設してから87年目にしようやく開催にこぎつけました。法人全体の年報発行が第5号を迎え、年報と学会開催が整いました。この2つに加えてあと当法人のジャーナル誌発行まで整うと当法人の業績を記録し公表する体制が整います。当法人よりずっと後に設立された法人で設立当初からこれらの体制をしっかりと整えて実績を積み上げているところも少なくありません。当法人はやや遅きに失した感もありますが、始める以上、毎年毎年内容を充実して次世代のスタッフに当法人の歩みを伝えていかなければなりません。



さて、今回の第1回の学術集会の準備は1年以上かけて行われました。新型コロナ禍の下での準備でしたので苦労した部分もありましたが、7月10日は非常に充実した学術集会を開催することが出来ました。学術集会で最も大事な部分は何といっても発表の演題数とその内容です。当初、果たして演題数は集まるだろうか、また、どの程度の発表内容になるだろうか、正直なところ、あまり大きな期待をするとがっかりする結果になると心配していました。それが、いざふたを開けて、そして、学会発表が全て終わり振り返りますと、それらの心配が杞憂であり、一言でいえば大成功でした。改めて、慈愛会スタッフのポテンシャルの高さに感銘を受けました。同時に理事長としてスタッフの力を十分に把握しきれていないと自覚するとともに、皆さんの力をしっかりと発揮させられているだろうかと自問自答した次第です。

現在、当法人では「教育開発センター」を設置してキャリアアップのためのスタッフ教育に力を入れています。まだまだ発展途上ですが、引き続き力を入れていきます。さらに、スタッフ一人一人に合わせたキャリアアップと評価、そして処遇についても、もっときめ細やかな仕組み作りが必須と考えています。来年からの第3次中長期計画では「進化・深化」をテーマとして計画を立てていきますが、この中に、2,000名を超えるスタッフ全員が輝く仕組み作りも盛り込んでいきます。益々厳しくなる医療・福祉行政の中で生き残るには最終的に大事になるのは「人」の力です。あすなる精神と亀の一步で前進していきます。



第1回(2021.7.10)の運営を通して

慈愛会学会運営委員会 委員長 中重 敬子



創設87年を迎え、1,589床を有する医療・福祉の組織となった公益財団法人慈愛会は、多くの医療職員が業務改善や研究的取組を積み重ねて成長してきたと言えます。当法人が今後さらに発展するために、それぞれの専門的立場、病院・施設を超え、また、職種を超え、一堂に会する機会が必要とされ、この度、第1回の学術集会在開催されました。

第1回の大会長は、今村英仁理事長が務めました。大会長として発信されたのは、最初からあまり無理をせず開催するということでした。コロナ禍での開催は、感染の機会とならないよう、感染制御チーム(ICT)の意見を聴きつつ、十分な感染対策を講じ、参加は慈愛会の職員に限定することなどを決め、大会長としての方針や指示の下、進めることができました。

大会長決定の後には、学術集会的ポスターの募集でした。慈愛会の原点や歴史、発展性をイメージしたシンプルで躍動感のあるポスターに決まりました。

演題登録は、締め切りぎりぎりまで検討していただき、口演発表は24演題、ポスター発表は、39演題の登録数となり、診療部から7演題、診療支援部から14演題、看護部から36演題、事務部から4演題、看護学校から2演題の発表となりました。どの発表も独自性があり、専門性を活かした素晴らしい内容でした。

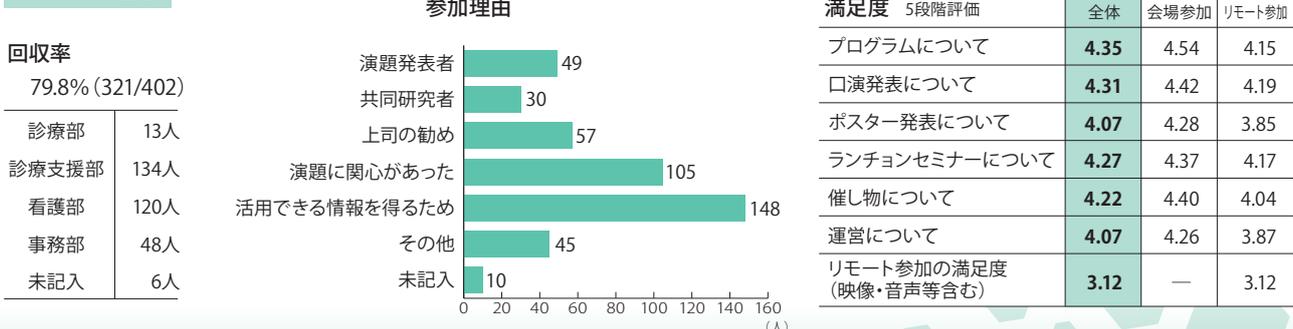
参加登録人数(の内の参加人数)は、会場264(245)リモート166(157)の合計430(402)名でした。

会場は、72名の運営協力員による自前の学術集会となりました。施設係の方が作成した立て看板は、どこの学会にも負けない今後も継続使用できる立派なものでした。また、全体の司会進行や座長の方たちの進め方もとても素晴らしく、発表者のスライドの準備なども第1回とは思えないほど、スムーズな運営をしていただきました。

開催についてのアンケート結果(回収率79.8%)は、参加の理由では、活用できる情報を得るため(148)と演題に関心があった(105)が上司の勧め(57)を超え、上位であったことは、主体的で学習意欲の兆候が伺えると思われま。満足度(5点満点)については、プログラム(4.35)口演発表(4.31)ポスター発表(4.07)催事(4.22)ランチョンセミナー(4.27)運営(4.07)と高い評価でしたが、リモート参加者のポスター発表満足度は3.85であり、リモートの満足度は3.12でありました。参加者の声としては、「多種多様な発表で良かった」「他の施設の取り組みが良く分かった」「皆が頑張っている姿を見て刺激された」「未来を見据えた学会だった」「慈愛会で働いている方々が素晴らしい活動をしていることに感動し誇りに思った」「発表の合間にスライドショー、三味線や唄が入り、気分転換が図れた」「慈愛会の独自性があった」「ポスターの1分間発表は、概要が分かり、効率的に見に行けた」など多くのよい意見があり、「今後も続けて欲しい」という意見に運営委員会として後押しされました。一方、リモート中継をするためのマイク・カメラの設備や性能に不備があり、第2回への課題として残されました。

試行錯誤しながら、多くの方々のご意見ご助言を頂き開催した第1回は、慈愛会の方々の一致団結と底力によるものであり、どんな逆境にも向かっていける体力のある組織として再認識できる学術集会だったと思います。

アンケート結果



第1回慈愛会学会学術集会 1日の記録

◆ 口演発表のもよう 発表者および演題 ◆

口演 Session I

医療・福祉の質

座長

今村総合病院 脳神経内科部長
有水 琢朗



同種造血幹細胞移植患者
における
身体機能変化

今村総合病院 理学療法士 武清 孝弘



造血幹細胞移植予定患者へ
Jonsen4分割法を用いた
カンファレンスが
看護師の移植前介入に
与えた影響

今村総合病院 看護師 川口 詩織



頑張る女性の
心身の不調に
漢方療法

今村総合病院 産科・婦人科 医師 貴島 佳子



医療用医薬品安定確保
への対応・取り組み

今村総合病院 薬剤師 鬼丸 俊司



消化器外科による最新の大腸癌治療
～腹腔鏡手術と化学療法の進歩～

今村総合病院 消化器外科 医師 馬場 研二



当院での
LAI(持続性注射製剤)
チームの取り組みについて

谷山病院 精神科 医師 高橋 誉

口演 Session II

人材育成・医療安全・働き方改革

座長

今村総合病院 副看護部長
飯ヶ谷 尚美



二次救急病院での
アクションカードを
用いた災害発生に
備えた取り組み
～救急総合内科外来
での災害図上訓練の
実施による看護師の
心境の変化～

今村総合病院 看護師 平川 あゆみ



慈愛会認定・特定看護
師会活動報告
～4年間のPAT研修の
活動と今後の課題～

今村総合病院 看護師 浜崎 彩



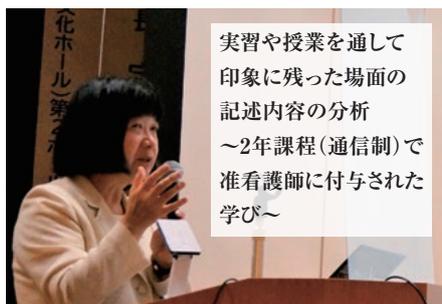
専門職としての
自律とやる気を上げる
組織風土に向けた取り組み

谷山病院 看護師 潮 昌子



外国人技能実習生受け入れ
による介護福祉士・ナース
エイドの意識の変化
～指導的立場になることの
影響について探る～

徳之島病院 看護師 福島 絵理子



実習や授業を通して
印象に残った場面の
記述内容の分析
～2年課程(通信制)で
准看護師に付与された
学び～

鹿児島中央看護専門学校2年課程(通信制)看護科
専任教員 丸山 さゆり



当院病棟職員の
腰痛と関連因子

今村総合病院 理学療法士 松元 龍



リモート会場

本会場での質問の様子



◆ Luncheon Seminar ◆

◆ Luncheon Event ◆



「くじらのせなか」スライドショー

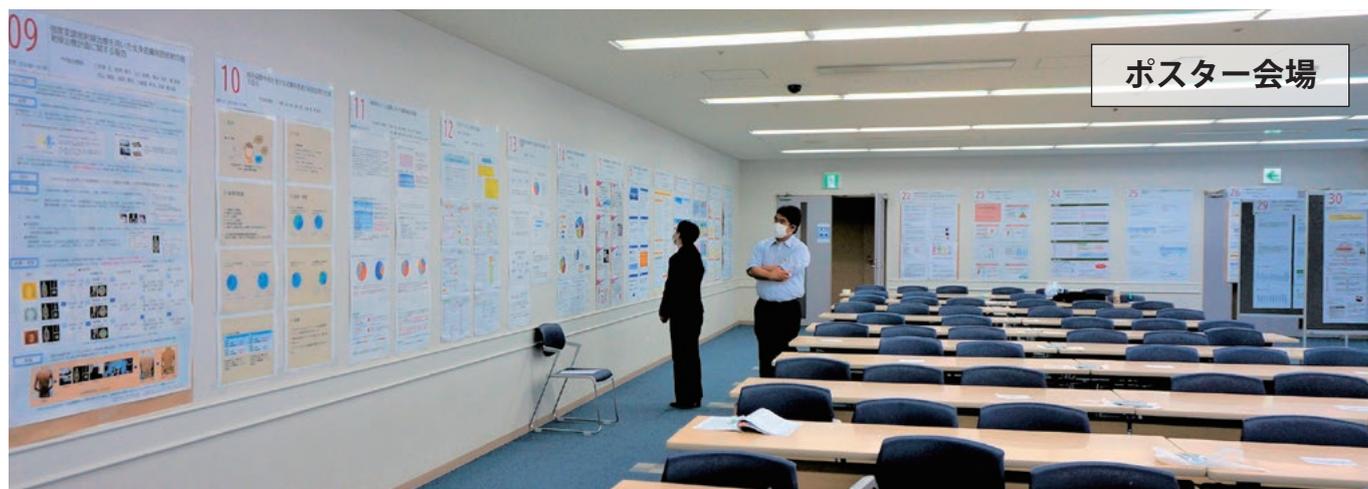


三線と蛇皮線と唄

ポスター 39演題 (演題・筆頭著者の所属・職種・氏名) ※演題登録時点の所属

1	いづろ今村病院 肛門外科の現状	いづろ今村病院	医師	石澤 隆
2	大腸がんの精検受診率を上げるために ～受診勧奨のシステムづくり～	いづろ今村病院	看護師	植木 真樹子
3	緩和ケア内科の訪問診療同行について ～円滑に緩和の訪問診療が行える体制作り～	いづろ今村病院	看護師	里之園 美佐代
4	口腔ケアに関する現状調査	いづろ今村病院	看護師	楠原 葉子
5	当病棟における内服管理フローチャート導入の検討	いづろ今村病院	看護師	圖師 知江
6	手術後訪問のシステム作りと充実を目指して	いづろ今村病院	看護師	大野 ひとみ
7	手術室における災害発生時の対応	いづろ今村病院	看護師	北 菜津美
8	経過中に心尖部肥大型心筋症様の形態を呈したたこつぼ型心筋症の一例	今村総合病院	臨床検査技師	塩浦 卓也
9	強度変調放射線治療を用いた全身皮膚周囲照射の放射線治療計画に関する報告	今村総合病院	診療放射線技師	市來 守
10	局所麻酔手術を受ける皮膚科患者の術前訪問の充実を図る	今村総合病院	看護師	橋口 諒一郎
11	精神科チーム医療における薬剤師の役割	谷山病院	薬剤師	染川 考佑
12	クロザリルパスに関する報告～従来パスからの改良～	谷山病院	精神保健福祉士	古園 友理恵
13	認知症患者治療病棟での家族交流会が参加者に与える影響	谷山病院	作業療法士	黒木 貴博
14	精神科病院での理学療法業務を経験して～今後の課題と展望～	谷山病院	理学療法士	古園 龍也
15	慢性期閉鎖病棟の OT の参加率をあげるために ～オペラント条件づけ技法を用いてみて～	谷山病院	看護師	岡村 理恵
16	精神科身体合併症病棟における看護の質保証 ～カンファレンスの実態報告と考察～	谷山病院	看護師	永迫 智子
17	心理教育の導入の振り返りと普及への課題 ～フィデリティ尺度とヒアリング調査から～	徳之島病院	作業療法士	小澤 孝典
18	短時間通所リハビリの成果と課題について ～利用者の心身機能・ADL 変化・ニーズを知り今後の支援に繋げる～	愛と結の街	介護福祉士	中間 敏子
19	家族の受容の段階や介護力に合わせた支援	デイサービスセンターあしたの風	介護福祉士	畠中 政樹
20	自分で美味しく食べるために 自己摂取への取り組み	グループホーム 愛と結の街	介護福祉士	西 七海
21	繰り返される注射のインシデントの要因調査 ～スタッフの属性に焦点を当てて～	いづろ今村病院	看護師	岩元 美樹
22	眼科外来の災害マニュアル作成～日常より防災に努め、災害発生時に役割を把握し安全に行動ができる～	いづろ今村病院	看護師	假屋 敬子
23	医療安全意識の定着に向けて～インシデントレポートの推進～	谷山病院	看護師	児玉 康恵
24	施設基準新規取得の取り組みと課題 ～戦略的施設基準取得の第一歩～	法人事業本部	事務員	中馬 敦志
25	新型コロナウイルス感染症流行下での学習取り組みの報告	谷山病院	看護師	有木 攻
26	介護福祉士の教育支援～協働体制の構築を目指して～	奄美病院	看護師	中村 美千代
27	災害トリアージ演習における看護学生の心のケアを重視した教育方法の効果	鹿児島中央看護専門学校 3年課程	専任教員	高山 理恵
28	慈愛会栄養部門 WG の取り組み～栄養部門の一体化を目指して～	いづろ今村病院	管理栄養士	中藪 智美
29	働きやすい職場環境づくり～インデックス調査結果より～	谷山病院	看護師	中藪 明子
30	TQM 推進者としての QC 活動への支援と教育	谷山病院	看護師	平松 秀明
31	コロナ禍における業務改善	徳之島病院	事務員	三原 義己

32	業務改善～インカムを導入して～	愛と結の街	看護師	福元 利英
33	外科外来業務内容の確立に向けて	いづろ今村病院	看護師	前田 莉菜
34	特定保健指導マニュアルについて ～実施から入力、請求までの過程～	いづろ今村病院	保健師	松下 祥子
35	ドックカンファレンス短縮に向けての取り組み	いづろ今村病院	保健師	内村 祐子
36	効果的な特定保健指導実施に向けて	いづろ今村病院	保健師	中村 好美
37	手術室業務の改善～少人数スタッフで業務を安全に効率よく行う～	いづろ今村病院	看護師	柳井谷 みさき
38	第一回学術集会にあたり	徳之島病院	医師	未満 純一
39	通所介護事業所転換に伴う変化について	デイサービス はなぶさ	介護福祉士	中馬 健一



◆◆ 口演発表のもよう 発表者および演題 ◆◆

口演 Session III

医療・福祉の質

座長

いづろ今村病院 副看護部長
上原 奈津美



集中治療室でのリハビリテーションを振り返る
～開設時と現在との比較で見えてくるもの～

今村総合病院 理学療法士 桑野 大介



ICU患者のせん妄発症に
関する調査
～関連する危険因子の
実態から見えてきたこと～

今村総合病院 看護師 中村 倫丈



「退院支援パス」立ち上げ活動報告
～円滑な退院支援のために～

谷山病院 精神保健福祉士 前田 結華



在宅復帰に向けての
自立支援

愛と結の街 介護福祉士 野口 文子



同じ時を過ごす思い出作り
～コロナ禍での患者支援～

谷山病院 看護師 濱田 多美枝



倫理的問題を解決するための支援
～変革理論を用いたアプローチ～

奄美病院 看護師 川畑 富士美

口演 Session IV

医療経済・地域医療

座長

今村総合病院 総務課長
鈴木 大輔



薬剤総合評価調整加算・
薬剤調整加算を算定した
症例の報告
ポリファーマシー解消を
目指した取り組み

いづろ今村病院 薬剤師 野元 優基



看護必要度分析

いづろ今村病院 事務 松下 雅和



入院時食事療養費制度改正に
向けた取り組み(実戦報告)

法人事業本部 事務 高野 正樹



顔面領域における
癌性悪臭対策の検討
～尊厳ある生活を
支えるために～

笹貫訪問看護ステーション愛の街 看護師 仮屋 蘭 綾



遠隔画像診断による
当院の医療貢献
～南薩地区における
脳卒中患者に対する
診断・治療介入について～

今村総合病院 脳神経内科 医師 浜田 恭輔



かごしまオハナクリニックに期待される
在宅医療の役割についての考察

かごしまオハナクリニック 医師 林 恒存



第1回学術集会 各担当者 _____

(省略)



前日の準備作業

審査結果報告

慈愛会学会運営委員会

厳正な審査委員の審査の結果、下記の方々を優秀者として表彰致しました。

今村理事長から「全ての発表が期待する以上のものであった。中でも特に優秀な発表であった」と敬意をもって賞され、表彰状と褒賞金が授与されました。受賞者の皆様、おめでとうございます。

今回選出されなかった発表者の方々においても、日常の業務の内容に課題を見出し、さらに追及するという点では、すべての発表に差はないように思います。この学術集会を継続し、慈愛会の職員の活躍の場となることを祈念致します。

口演 最優秀発表

かごしまオハナクリニックに期待される在宅医療の役割についての考察

かごしまオハナクリニック 医師 林恒存 他

■受賞者代表コメント

この数年、参加賞以外に賞に縁がなかったので、今回の受賞を率直に嬉しく思います。様々な職種による発表や抄録を通じて、業務における課題解決や改善への探究心をもった人材が慈愛会には数多くいるのだと再認識し、本学会開催の趣旨をようやく理解しました。また、発表へむけたデータ解析・考察のプロセスは、現状を把握し発展への課題を見出すのに大いに役立ちました。本学会が、法人内の「人やコト」を互いに深く知る機会となり、そして学術的にも年々レベルアップしていくことを期待しています。

口演 優秀発表

同種造血幹細胞移植患者における身体機能変化

今村総合病院 理学療法士 武清 孝弘 他

顔面領域における癌性悪臭対策の検討

～尊厳ある生活を支えるために～

笹貫訪問看護ステーション愛の街 看護師 飯屋 蘭 綾 他

薬剤総合評価調整加算・薬剤調整加算を算定した症例の報告 ポリファーマシー解消を目指した取り組み

いづろ今村病院 薬剤師 野元 優基 他

口演 特別賞

専門職としての自律とやる気を上げる組織風土に向けた取り組み

谷山病院 看護師 潮 昌子

ポスター 最優秀発表

強度変調放射線治療を用いた全身皮膚周囲照射の放射線治療計画に関する報告

今村総合病院 診療放射線技師 市来 守 他

■受賞者代表コメント

2017年に高精度放射線治療装置TomoTherapyを導入し、当部門の放射線治療はスタートしました。慈愛会職員の皆様に当部門の放射線治療を紹介したいと思っていた所、今回の慈愛会学会の主旨を知り、非常に良い機会だと思い演題登録を致しました。

結果として、最優秀ポスター賞という評価を頂いたことをとても嬉しく思います。最後に、日頃より多くの症例をご紹介頂いている診療科の先生方、放射線治療に携わるスタッフの皆様、そしてコロナ禍で大変な中、開催まで尽力頂いた慈愛会学会関係者の皆様へ厚く御礼申し上げます。

ポスター 優秀発表

自分で美味しく食べるために自己摂取への取り組み

グループホーム愛と結の街 介護福祉士 西七海 他

心理教育の導入の振り返りと普及への課題～フィデリティ尺度とヒアリング調査から～

徳之島病院(現所属 就労支援センターステップ)作業療法士 小澤 孝典 他

繰り返される注射のインシデントの要因調査～スタッフの属性に焦点を当てて～

いづろ今村病院 看護師 岩元 美樹 他

局所麻酔手術を受ける皮膚科患者の術前訪問の充実を図る

今村総合病院 看護師 橋口 諒一郎 他

表彰式 (2021年8月5日 かごしまオハナビル3階大会議室)



最優秀表彰を受けた林医師



同じく最優秀表彰を受けた市来技師



左から飯屋蘭看護師、潮看護師、小澤作業療法士、橋口看護師、林医師、市来診療放射線技師、武清理学療法士、岩元看護師、野元薬剤師



西介福祉士

最優秀および優秀発表、特別賞に選ばれた演題、またそれ以外の演題の中から審査評価の高い演題を運営委員会で選出し、研究の全文(原著論文)を学会雑誌「かごしま慈愛会ジャーナル」に掲載します。ジャーナル発行の詳細は追って周知いたします。

慈愛会学会学術集会の立ち上げと 第2回学術集会に向けて

今村総合病院名誉院長、臨床研究センター長 宇都宮 與
(慈愛会学会第2回学術集会 大会長)



1年以上にわたる新型コロナウイルス感染症との闘いの中で令和3年7月10日第1回慈愛会学会学術集会在今村英仁大会長のもと自治会館で行われました。1年以上かけて準備委員会の話し合いを経て、参加者全員が新型コロナワクチン接種後という条件の中、十分な感染対策を実施して行われました。会場参加者245名、オンライン参加者が157名と多くの参加をいただきました。「医療・福祉の質」「人材育成・医療安全・働き方改革」「医療経済・地域医療」などのテーマについて離島を含めた5病院、クリニック、介護施設、法人事業本部、看護学校から口演発表24演題、ポスター発表39演題の63にのぼる多くの演題が各職種から幅広い角度で発表されました。食生活についてのランチョンセミナーも勉強になり、昼休み時間の奄美からのスライドショー「くじらのせなか」には感動し、三線、蛇皮線と唄にも癒しをいただきました。

法人の活動や業績は5年前からはじまりました慈愛会法人年報である程度知ることができるようになりましたが、このような法人の活動や業績が現場でどのような工夫と努力で成し遂げられたかについては知る機会がありませんでした。今回、慈愛会学会学術集会を通して多くの施設の多くの職種から活動実績を紹介発表していただきました。記念すべき第1回慈愛会学会学術集会に参加して多くの口演発表を聞き、ポスター発表を閲覧し、今まで知らなかった多くの情報を得ることができました。また、多くの優秀な人材を抱える慈愛会の底力というものを感じ取ることができました。今回の学術集会へ参加された多くの方が同じように感じたのではないのでしょうか。しかしながら、今回発表された演題は慈愛会の活動のほんの一部に過ぎないと思います。これから慈愛会学会学術集会を継続・発展させて慈愛会職員全員が法人の活動実績の出来上がる過程を知り、法人の使命や役割の達成の推進力となることを祈念しています。

来年の第2回学術集会の大会長を仰せつかりましたが、大役が果たせるかどうか不安です。第2回は、令和4年7月9日川商ホール(鹿児島市民文化ホール)での開催を計画しております。コロナの終息を祈りながら、法人の継続と発展に繋がるきっかけとなる学術集会となるように準備に努めたいと考えておりますので、皆様のご支援とご協力をよろしくお願い致します。



学会理事、運営委員、協力委員による記念撮影

第32回オリンピック競技大会(2020/東京)に携わって

今夏のオリンピックで慈愛会スタッフ2人が東京での医療支援に従事しました。お二人から支援活動に関わった経緯や大会を通して感じたことを伝えていただきます。



空手競技 メディカルチーム

今村総合病院 理学療法士

轟原 与織

Todorohara Yoori

2021年8月8日、史上初の延期・無観客開催となった東京2020オリンピックが幕を下ろしました。

オリンピックとの縁

2016年度のアスレティックトレーナー養成講習会を受講した際に、空手の日本代表トレーナーと話をすることがありました。当時、私も国体へ出場する鹿児島県代表トレーナーをしており、同年8月のIOC総会で空手競技が新種目に採用され、共に喜んだことを覚えています。

2018年7月、「オリンピックで救護活動の出来る理学療法士を探しているから、トドちゃん(私の愛称)を紹介しても大丈夫?」と日本代表トレーナーから連絡がありました。それが今回の始まりです。

主に関東の病院から集められた医師・歯科医師・看護師・理学療法士によるメディカルチームの一員に加わることで、鹿児島からでもオリンピック支援に参加出来ることには本当に驚きました(周囲の皆さんは私のintonationに驚いていました)。



練習会場では今村総合病院スポーツ整形外科ボロシャツ着用



練習会場で海外選手へのテーピング

延期、世論、心情

メディカルチームは、2018年・2019年に東京で開催された世界大会の救護活動を通してチームワークを高め、選手

の為に、楽しみにしている人達の為に頑張りたいと、オリンピックに向けて準備を進めてきました。

しかし、予想さえしなかった災禍に見舞われます。

2020年3月11日、新型コロナウイルス感染症の世界的大流行を受け、WHOがパンデミックを宣言したことで状況は一変しました。

延期が決定した東京2020オリンピックは、多くの人が求めている、期待されていない、嫌われるものとして扱われるようになってしまいました。やり場のない不満からアスリートに対しても非難の声が上がる事態となり、開催の有無すら分からないまま、私も悲しみや不安が募っていきました。

2020年7月23日、白血病から復帰を目指す競泳女子選手が、国立競技場から世界へ向けてメッセージを発信しました。それは、医師・看護師など多くの医療従事者の支えに対する感謝の気持ちと、1年の延期を「プラス1」と考える未来志向的で前向きな考え方でした。

多くのアスリートが不安の中、最高のパフォーマンスを発揮出来るよう、日々前を向いて取り組んでいる。私も開催が中止と言われるまでは、今出来る準備を整えていこう、と前向きな考え方になれました。



試合中の選手の担架による搬送 (一番右が筆者)



コート上でメディカルチームの皆さんと (後列右から4目が筆者)

感動と感謝と

2021年7月23日、東京2020オリンピック開幕。

柔道がメダルラッシュで沸いた日本武道館で、新種目の空手が開催されました。美しさと力強さを融合した演武の『形』、一瞬の攻防が魅力で大迫力の『組手』。日本代表が金・銀・銅メダルを獲得した瞬間の感動と興奮は、一生の宝物です。メディカルチームとしては、細かく迅速な報告・連絡・相談と、全員で連携した担架での救護活動がとても貴



空手組手のピクトグラム（を日本武道館前で実演）

重な経験となりました。また、アスリートから学んだ前向きな心構えは、これからも持ち続けて、様々な事に取り組みたいと思います。

このような困難な時期に、貴重な機会を与えて頂きました。帆北院長、濱里整形外科主任部長、有島事務長、感染管理室切手副看護師長、リハビリテーション部村山統括室長、白尾科長、また多大なるご迷惑をお掛け致しました、スポーツ整形の理学療法士13名ひとり一人に感謝申し上げます。



日本武道館 会場内の様子（写真左側がメディカル席）

トライアスロン競技 観客用医務室支援

今村総合病院 看護師 **上野 志織**
Ueno Shiori

支援活動を志したのは…

看護協会からボランティア要請があったとき、日本でオリンピックが開催されることは自分の人生の中で一度きりなのではないかと思い、この機会に何らかの形で関わりたいと思ったからです。また、新型コロナウイルスの影響で自分自身の環境や心情に変化があり、違った環境で何か経験したいと思ったことが参加のきっかけでした。

活動内容

お台場海浜公園で開催されたトライアスロン競技の観客用医務室での業務でした。この医務室は選手以外のすべての人が対象でした。

朝4時30分に集合し、ミーティングの後に薬剤のチェックをしました。外傷だけでなく、熱中症対策の薬剤や緊急時に対応できるような物品、小児や妊産婦にも対応できるような物品も準備されていました。また、新型コロナウイルスも踏まえ、呼吸器症状のある患者の隔離場所として医務室とは別にテントが準備されていました。会場には救急車も待機していました。



お台場海浜公園にて。
左後方に五輪モニュメント



雨模様の会場から見た虹

無事開催のために

想像していた以上にたくさんの方が関わっていることが印象的でした。直前まで開催が危ぶまれましたが、大会を成功させることや、選手が不安なく集中できるための環境が整えられていました。会場に入るために手指消毒、体温測定、自衛隊による手荷物検査、顔認証もありました。会場周辺は常時、警察官が巡回し、一般ボランティアの方も競技中にずっと巡回をしてくださっていました。

選手が主役ですが、裏方の方々からもこの大会を成功させたいという強い思いが伝わってきました。看護師の一人として、そのような環境に触れることができ、自分の中での上なくいい経験になったと思います。

私は今回初めてトライアスロンという競技を見ました。目の前を一瞬で通り過ぎていくバイクや最後のランはかつてよく感激しました。4年に一度の大会で、今回はさらに1年延長されていたこともあり、大会に



目の前を一瞬で駆け抜けていった
バイクの選手たち

かける思いが選手から伝わってきました。無観客だったため声援はなかったですが関係者からの温かい拍手があり、音楽や解説などが会場を盛り上げていました。

今回の東京オリンピック看護師ボランティアに参加するにあたり、院長をはじめスタッフの皆さまのご理解ご協力のおかげで活動することができました。感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

憧れの白衣で職場体験

徳之島病院

COVID-19の影響で延期になっていた徳之島病院での中学生職場体験が6月29日、30日にありました。当院では精神科を知ってもらうこと、未来への投資を目的として職場体験を受け入れています。「白衣を着てみたいよね」の問いに大きな声で「はい」と答える姿は看護師に憧れていた頃の自分を思い出させ思わず笑顔になってしまう瞬間でした。

中学生には2日間で当院の全職種を体験してもらい、スタッフにはそれぞれの部署で中学生に興味をもってもらえるようプログラムを考えてもらいました。スポーツをしたりアイロン掛けをしたり、チョコレートで薬を作ったり・・・一緒に豆腐ステーキを作ったデイケアの利用者とは「豆腐みたいなふわふわ笑顔でね」と一緒に写真を撮るほどに仲良くなっていました。何十年後かに同じ職場で働ける日が来ることを楽しみにしています。

徳之島病院 看護師長 池田 美和子



「1年目サポートキャンパス」初開催

鹿児島中央看護専門学校

鹿児島中央看護専門学校は7月3日、今春卒業した16期生48人を対象に「1年目サポートキャンパス」を開催しました。

16期生はコロナ禍で臨地実習が満足に行えず、学内実習で学びを深め、国家試験全員合格を達成した学年です。依然として収束の見通しが付かないコロナ禍で1年目ナースとして従事し、大変な思いを抱えていると思います。そこで「同期生が集い、悩みを共有して、明日からの活力に変えることができたら・・・」という趣旨のもと、教員皆で構想を練り、初の「サポートキャンパス」開催となりました。当日は42人が参加（徳之島に赴任した3名はリモート参加）しました。

グループディスカッションでは「できない事ばかりを数えずに、この3カ月でできた事を確認し合おう。そして明日からまた前進しよう」をテーマに、入職してこれまで嬉しかったこと、やりがいを感じたこと、戸惑っていること等々、3カ月の歩みを振り返りました。鹿児島大学の高谷哲也准教授による「専門家の成長の特徴と語りが拓く学び」の講演もあり、自己を物語ることと他者との対話の重要性などを学びました。

参加した16期生たちは懐かしい学び舎でほっと一息ついて、多くを語り、満面の笑顔を見せてくれました。アンケートでは「悩みや不安を話せて気分が軽くなりました」「あらためて看護師として頑張りたいと感じました」等の感想が寄せられ、開催意義は大きかったと感じました。

鹿児島中央看護専門学校 3年課程副校長 久徳 美鈴



表彰おめでとうございます

日本看護協会会長表彰

法人事業本部 理事長室 中重 敬子 顧問



45年余りの看護業務の中で約30年間看護管理者として看護師の教育育成に携わり、鹿児島県看護協会の講師としても活動してこられました。今村総合病院看護師特定行為研修センターで地域の看護師のキャリア開発に貢献し、慈愛会においては看護部以外の職種のキャリア開発向上の支援も行い、多職種協働の文化醸成に尽力されている等、多くの功績を称えられ、表彰されました。

鹿児島県看護協会会長表彰

今村総合病院
北原 美代子 看護部長



今村総合病院看護部総勢500人余を率いる指揮官として多忙な毎日を送るおふたり。北原看護部長は看護師の道を歩み始めて39年、中谷副看護部長は33年と、長きにわたり当院のみならず鹿児島県の地域医療に貢献してこられました。

鹿児島県医師会会長賞

今村総合病院
中谷 明実 副看護部長



永年、看護業務に精励された功労に対する表彰、誠におめでとうございます。



【奄美病院の取り組み】

今回は奄美病院地域医療連携室の取り組みを報告します。地域医療連携室は入院患者や外来患者、そしてそのご家族等のお悩みを福祉的なアプローチから支援しています。職員は遣り甲斐を持って仕事に取り組んでおり、時に悩み、患者様のためにどのようなアプローチが最良なのかを考えて行動しています。

地域医療連携室では毎朝のミーティングの時間に、各職員が業務のことや悩んでいることなどを報告し皆で共有しています。その中で週1回(月曜日)は、フィロソフィを紐解く作業を行い、仕事に向かう姿勢や方向性を再確認しています。具体的にはその日の当番が1項目を抽出し、自分の生活面等と絡めながら意見を述べ、関連する自分のエピソードも紹介することでより理解しやすいものになっています。他の職員も感想などを話すことでディスカッションとなり、より「慈愛会フィロソフィ」を深く学ぶことに繋がっています。

単純な浸透方法ではありませんが、より確実に「慈愛会フィロソフィ」を学ぶことができ、仕事で悩んだ時に基本の軸が揺れることなく患者様のための支援が提供出来ています。

指定特定相談支援事業所あゆみ 相談支援専門員 主任 下田 清一
(慈愛会フィロソフィ委員会)



第7項「仕事を好きになる」に思うこと



「職場では業務に追われ、家では家事と育児に追われる日々がもう13年か〜」、長男が13歳になった誕生日に感慨深くため息をつく自分がいました。そして「私は今でも仕事が好きなのか?」と自問し、「大丈夫。今も好きだ」と確認し安心。

追われる日々は、何かを見失ったり、気づかないふりをしたり、心の悲鳴に蓋をしてしまう…なんていうことも起こりうる危険なものであります。この危険と隣り合わせの毎日を送っている兼業主婦(主夫)が、私の周りにどれだけいるのでしょうか。

慈愛会フィロソフィの中にある「仕事を好きになる」は、私が仕事を全力で頑張れる原動力の一つです。好きでなければ続けてこれなかったですし、こんなに多くの繋がりや信頼をいただくことも出来ませんでした。好きだから頑張っただけで、頑張ったから達成感を得たり、信頼出来る仲間と出会えたりしたと日々感じています。

迷いや葛藤など様々な壁にぶつかった時には、フィロソフィに目を向けることで、慈愛会職員として立ち向かう姿勢を学び、考えていきたいと思えます。

さて、三男が18歳になるまで後16年。これからも「私は今でも仕事が好きなのか?」と自問する日々が続きます。

奄美病院 地域医療連携室 精神保健福祉士 副主任 吉村 あゆみ

冊子抜粋 第7項「仕事を好きになる」

仕事をやり遂げるためには大変なエネルギーが必要です。そしてそのエネルギーは自分自身を励まし、燃え上がらせることで起こってくるのです。そこで、自分が燃える一番良い方法は仕事を好きになることです。どんな仕事であっても、それに全力を打ち込んでやり遂げれば、大きな達成感と自信が生まれ、また次の目標へ挑戦する意欲が生まれてきます。その繰り返しの中で、更に仕事を好きになります。そうなればどんな努力も苦にならなくなり、素晴らしい成果を上げることができるのです。

こうした心境にまで高まって初めて、本当に素晴らしい仕事を成し遂げることができるのです。

在宅医療

リレーエッセー

5

安心できる在宅生活を目指して

介護老人保健施設 愛と結の街 理学療法士 原田 良二



当施設の訪問リハビリは入所から在宅まで切れ目ない在宅サービスの提供を目指しています。在宅生活には「安心」が必要であり、訪問リハビリは在宅復帰後の不安を解消する役割があると考えます。

最近、転居された方がいました。転居前は玄関に階段があり、ご家族では昇り降りが難しく、外出の障壁となっていました。転居により外出ができる環境を期待しましたが、転居先には諸事情によりまた階段がありました。しかも、前より階段の傾斜が大きく、介助が難しくなっていました。そこで外出の評価を行い、介護力に応じた福祉用具の選定、通所サービス利用時の送迎方法の検討、介護費用等を考慮して多職種と協議した結果、伸縮式のスロープが導入されました。導入後は家族と散髪に行くことができ、笑顔で通所施設に来られています。

バリアフリーの住宅は少なく、高齢者の暮らしは何かしらの問題を抱えていることがあります。それらを解消するために、より良い方法を見出すことで安心した生活に繋がり、QOLが向上することをこの方への支援を通して改めて考えることができました。今後もシームレスなリハビリで連携を図り、win-win-winとなるような在宅生活を支援していきたいと思えます。



(省略)

慈愛会年報作成委員会より「慈愛会年報第5号」電子ブック 発刊のお知らせ



法人版年報「公益財団法人慈愛会 年報第5号(2020年度)」を慈愛会ウェブサイトで公開しました。

アクセスはこちらから →

慈愛会ウェブサイトトップページの「慈愛会年報」ボタンからご覧いただけます。



病院施設、事業所単位での臨床指標、各種データ、学術論文や学会発表等の学術研究業績に続き、職種・職能毎の組織横断的な取り組みを掲載しました。

巻末には「一年のあゆみ」として、2020年度における当法人の新型コロナ対応(各病院施設の主な対応、鹿児島県の要請による人材派遣実績等)を取りまとめました。

法人スタッフの皆さんの閲覧をよろしくお願いします。

編集後記

2021年8月、世界各国がコロナ禍の中で開催された東京オリンピックが無事に閉会式を迎え、幕を下ろしました。続いて開幕したパラリンピックでも熱戦が続いています。

直前まで開催の賛否が分かれる中、不安を抱えながらもひたむきに鍛錬を重ねて出場されたアスリートの皆さんの頑張る姿に感動を覚えます。

今、鹿児島県内は新型コロナウイルス感染症(デルタ株)の患者様がかつてないほど急増し、各施設の職員の皆様も様々な対応に追われていることと思います。

依然として先の見えない状況が続いておりますが、収束する日を願いながら、皆さんの力を合わせてひたむきに、前向きに頑張っていけたらと思います。

今村総合病院 総務課 有馬 理恵

Professional

慈愛会報 [プロフェッショナル]

2021年8月 Vol.26

発行：公益財団法人慈愛会

編集：Professional編集委員会

委員会事務局：慈愛会 企画部 経営企画室

duties-support-room@jiaikai.jp

TEL 099-256-0311 内線2042



公益財団法人 慈愛会

<https://www.jiaikai.or.jp/>